

## 小さな庭の訪問客



我が家には、食事をする部屋の前に坪庭ほどの小さな庭があって、ここに引っ越してくる前からあったヤマモミジ、モチノキ、ツバキなどの中木や、ツツジ、サツキ、アジサイ、山椒などの灌木などが雑然と植わっている。

以前はもう少し緑が多かったが、二世帯住宅の増築などで減ってしまった。

それでも、隣の家やはず向かいの家にも、桜や柿、梅の木などがあって、我が家の前の幅員4mの通りは、まあまあ緑が連なっている方だと思う。



林試の森のコサギ

そして、歩いて10分ほどの所には、「林試の森公園」や「目黒不動尊」「不動公園」の大きな緑があるお陰だと思うが、我が家の小さな庭にも小鳥や虫などの訪問客がやってくる。

「林試の森公園」の池に行くと、コサギ、アオサギ、カモなどに会えたり、家内が愛犬と散歩中にカワセミを見たとき興奮して帰ってきたこともある。今年はヒグラシの声も聴いた。

「目黒不動尊」や「不動公園」とともに、梅や桜の花や、イチョウやモミジの紅葉など四季折々の自然を身近に感じさせてくれる。

訪問客の中でも小鳥たちは、毎日、目の前で木の間を飛び回る姿や鳴き声などで、年寄り夫婦を楽しませてくれる。今では鳴き声で、何の鳥か分かるようになった。



大家族のスズメ

一番多いのは、なんといってもスズメだが、15羽の大家族をはじめ、12羽から1羽までのいくつかのグループがやってくる。

たまに食べ残した飯粒を地面に置いておくと、目ざとくやってきて賑やかになる。

それでも、直ぐには地面まで降りてこないで、先陣になるスズメが様子を伺いながら木の枝や脚立の段々を伝って徐々に降りてくると、残りのスズメが同じように用心をしながら、少しずつ後をついて降りてくる。先頭が地面に到達すると、安全と思ったのか次々と降りてきて、きょろきょろしながら一斉に啄みだす。そして一羽が何かに驚いたように飛び上がると、瞬時に、一斉に飛び上がって木の枝にとまる。そしてまた、何事もないことを確認すると同じようにして順々

と下に降りてくる。

そんなことを何回か繰り返しているうちに気が付くと、いつの間にか飯粒は無くなっている。



ツグミ、メジロ、スズメと一緒に

時々、自分では啄まないスズメに、口移しに餌を与えている光景を見るが、あれは子スズメに親が食事を与えているのだろうとほほえましく見ている。

たまに、スズメの群れに一羽のメジロがいつも交じってくるのがいて、何かの加減で自分はスズメだと勘違いしているのだと思っている。そこに、ツグミが混じることがあった。

昔、横浜市に勤めていた時に、ある市民グループが工夫した、ペットボトルを利用した小鳥用の餌箱を買ってきて庭の木にぶら下げていたことがあった。小鳥がやってきて餌をついばむと、間もなく餌は殻だけになってしまう。買い置きしてあった餌が無くなってしまいペットショップに買いに行ったら、野生の鳥に餌付けをしたらだめですと売り場のお姉さんに怒られてしまったので、その餌箱は捨ててしまった。

しかし、食べ残しの飯粒にやってくるスズメの様子を見るのは楽しみで、後ろめたさを感じながら時々そっと撒いてしまう。



メジロ

次によく来るのは、メジロとシジュウカラで、メジロは椿の花が咲く時には必ずつがいでやってきて蜜を吸っている。我が家の椿は侘助だが、年によっても若干違うが、多くの花をつける。



ヒヨドリ

同じ頃ヒヨドリがやってきて、メジロと競って蜜を吸う。蜜を吸われた花は地面に落ちてしまい、地面が花だらけになる。ヒヨドリの声は、何時もけたたましくうるさく、招かれざる客の存在だが、時として一羽で悲しげにきれいな声で鳴くこともあり、いつもこう鳴けばいいのにと思っている。



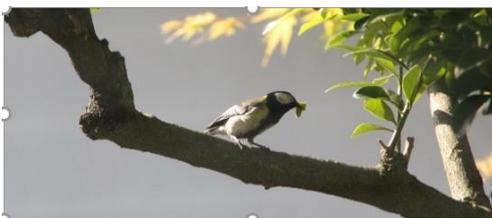
苔を運ぶシジュウカラ

シジュウカラも2月頃から6月頃までぐらいか、ツガイでやってくる。

何年前か前に、区役所で四十雀の巣箱を配布しているというのを知り、庭の木に取り付けたことがある。

1年目は、様子を見には来るだけで巣づくりはしなかったが2年目には巣づくりをした。ツガイが交代で、苔のようなものをせっせとくわえてきて巣づくりをしているらしい様子がいじらしく、雄と雌の違いも分かるようになって、家内と今は雄だ、今度は雌だと言いながら、毎日見ているのが楽しみだった。

ある時期から、運んでくるものが虫のようなものになり、



餌を運ぶシジュウカラ

そのうち、かすかにかわいい声が聞こえてくるようになって、雛が育っている様子が伺えて、いつ巣立つかと楽しみにしていた。

5月の中旬に夫婦で一泊の旅行から帰ってきたところ、かわいい声が聞こえなくなっていたことに気が付いた。巣立つ姿を見逃すまいと期待していたので残念なことをしたとがっかりしていたら、家内が巣箱の隣の枝の陰から蛇が顔を出しているのを見つけた。そういえば数年前に、隣の家でシジュウカラの雛が蛇にやられたことがあったのを思い出し、嫌な予感をしながら巣箱の中を覗くと蛇に襲われた跡が残っていた。



オナガ



ジョウビタキ(雌)



ジョウビタキ(雄)



コゲラ



アカハラ



ホンセイインコ

家内とがっかりしたのは言うまでもないが、その後しばらくの間、親鳥が時々やって来ては巣箱の中を確認する姿を見るのがよけいに悲しい思いにさせた。巣箱をかけることは、餌付けと同じように自然の摂理に反することかもしれないと思った。

最近少なくなったのはオナガだが、先日珍しく10数羽の団体でやってきた。

あと、ジョウビタキ、ムクドリ、コゲラ、アカハラが時々姿を見せる。ウグイスはめったに姿を現わさないが、大分前に野良猫にやられてしまったことがあった。キジバトも来る。聞きなれないうるさい声が出たと思ったら緑色の大きなホンセイインコで、飼われていたのが野生化したらしい。

カラスはごみの収集時間と黄色いネットカバーが功を奏したのか、昔より数は減ったようには思うが、相変わらずうるさい声でやってくる。

以前、門の脇に大きな松の木があり巣をつくったことがある。家の出入りをするたびに親カラスがやかましかったが、ある時後ろから飛んできて自分の頭を足でつついて逃げていった。そして先にあった高い塀の上に止まってこちらを見ていたので、持っていた傘を突き出したが届かないのでしばらく睨みつけていた。

その後、自分が玄関を出る度に目の前の電線に止まって、こちらを見ながらガアガアとうるさい。歩いて行くと後ろからどこまでも追いかけてくるので、また後ろから攻撃されてはかなわないと、振り返り振り返り出かけたことが何回か続いた。

そして卵がかえって雛が巣立つ頃、親ほどに大きくなった2羽の子カラスが道路に落ちてしまった。親鳥が大声を出してあたりを飛び回り、通行する人たちも大変迷惑したことがあった。そんなこともあって、カラスは姿や色、きたならしい声やごみあさりといい、全てが好きになれないというか大嫌いな鳥だ。

雨が降る時だけひょっこり出てくるのがヒキガエルで、夜は暗闇の中であやうく踏んづけそうになる。普段はどこに隠れているのかとんと姿を見せないが、でかいウンチを残していく。

セミは鳴く順番が、アブラゼミ、ミンミン、ツクツクボウシと思っていたが、今年の夏は順番が滅茶滅茶だった。おそらく、異常気象がセミにも影響して勘違いしているのだろう。



カラスアゲハ



ツマグロヒョウモン

昔はよくいたモンシロチョウやモンキチョウをあまり見かけなくなったように思うが、代わりにツマグロヒョウモンという沖縄などで見る蝶がよく飛んでくる。シジミチョウもくるが、最近アゲハやカラスアゲハ、アオスジアゲハがよく来るようになった。

カマキリ、オンブバッタはいるが、トンボは少なくなったような気がするし、子供の頃によく見たシオカラトンボ、ムギワラトンボはめったに見なくなった。



置物にしていたスズメバチの巣

ハチも少なくなった。我が家を建て替える前だから40年以上も昔になるが、クマバチがやたら飛んでいると思っていたら縁の下に大きな巣が出来ていたり、軒下にアシナガバチがよく巣を作ったりしたものだ。

20年程前には、今はもうないが、当時、樹齢60年程のキンモクセイの木にスズメバチが巣をつくった。翌年、空になった巣を家内が切り取って、しばらく玄関の置物にしていた。

最近ハクビシンがいるという話を耳にしていたが、夕方、電線の上を歩いている姿を見かけた。そしてこの間は、ついに我が家の庭にも現れた。いつも侵入してくる野良猫かと思ったら、脚が短く、しっぽが太く長いのでハクビシンと分かった。

我が家では、予告なしに現れる動物たちを見て慌ててカメラを取り出し、動物たちに気配を感じさせないよう窓はもちろん開けられず、音も立てないよう部屋の中をそっと動きながら被写体を捉えて撮影するので、シャッターチャンス逃すことが多い。うまく撮れたと思っても、ぶれたりピンボケだったりする。

目黒区では「めぐろ いきもの气象台」という仕組みをつくって、区民から情報を集めて「自然通信員だより」というのを送って来てくれる。区内の四季折々の動植物情報が写真入りで掲載されている。

その多くが、我が家の小さな庭にも訪問してくるので、動物たちにとっては、この小さな自然でもまんざらではないのだろうと思っている。

(2018年9月 記)